



Handball Referee

スタートブック



Handball Referee スタートブック

1	はじめに.....	3
2	レフェリーの持ち物・服装.....	3
3	競技開始前.....	3
4	競技開始.....	5
5	競技中の役割.....	6
6	プレーの中断 再開.....	15
7	プレーの観察.....	17
8	ハーフタイム.....	18
9	競技終了.....	18
10	ジェスチャーの解説.....	19
11	用語の解説.....	24
	令和8年度(2026年度)C級公認審判員の目標.....	30
	< C級公認審判員チェックリスト >.....	32
	令和8年度(2026年度)D級公認審判員の目標.....	34
	< D級公認審判員チェックリスト >.....	36

1 はじめに

スピーディーなゲーム展開、激しい身体接触、これらはハンドボールの魅力です。レフェリーは、そのような魅力あるハンドボールのゲームを管理・運営していく、「指揮者」のような存在と言えます。指揮者としてプレーヤー、そして観衆に認められるためには、「誠実」さが求められます。勝敗の行方がどうであっても、最善を尽くし、ひとつひとつを丁寧に判定していかなければなりません。

丁寧に判定をしていくために、競技規則の知識・理解は欠かせません。反則された者が不利に、反則したものが有利になるということは避けなければなりません。競技規則の知識をもとに、レフェリーとしての信念をもって、「指揮者」としてコートに立ちたいものです。

ハンドボールの特性や歴史を知り、「数少ない笛」と様々なインフォメーションを用いて、「ハンドボールの魅力を引き出す(導く)」ことに、常にチャレンジして欲しい。一つの笛が受け入れられるも、そうでないも、その人の人間性が左右します。チーム・プレーヤーにトレーニングの成果を十分に発揮させ、ハンドボールを、そしてハンドボールに関わる全ての人を守る「指揮者」を目指しましょう。

『笛は人格を現す』

2 レフェリーの持ち物・服装

2名のレフェリー(ペア)は、1つのチームです。レフェリーウェア(上下)やソックス、シューズ(黒色)、ジャージもペアで同じものを着用しましょう。レフェリーウェアについては、黒を基本とし、複色を用意しておきます。笛(黒色を原則)、イエローカード、レッドカード、ブルーカード、ワッペン、筆記用具、時計を用意し、公認審判員手帳を必ず携帯します。

全国大会の審判員会議などには、大会審判長が指示した服装で出席しなければなりません。事前に確認しておきましょう。

通信機器を使用する場合には、3台1セットを基本として、使用可能な状態であることを確認しておきましょう。会場に到着してから「使えない・・・」は、心の動揺にもつながります。故障がないか、充電はされているか、常に確認する習慣をつけましょう。



3 競技開始前

レフェリーは、競技規則に沿った適切な点検を行い、起こりうる問題に対応できるよう、十分な時間の余裕を持って競技場に入る必要があります。競技会当日の競技会場へは、余裕を持って到着しなければなりません。担当する競技の開始時間の最低 1 時間前には、到着するよう心がけましょう。会場に着いたら、大会本部に挨拶をし、更衣等の準備を始めましょう。

コイントス

試合開始時のスローオフもしくはベンチサイドの選択をするチームを決めるために、一方のレフェリーがもう 1 名のレフェリーおよびテクニカルオフィシャル(以下、TO)の立ち会いのもと、ジャッジズテーブルの前でコイントスを行います。コイントスに勝ったチームがスローオフかサイドかを選びます。

記録用紙

- 必要に応じ、日本協会登録証の確認や、パンフレットや名簿等との照合を行います。
- TOと連携をして、試合開始直前に、チーム責任者からサインをもらいます。



装備

コイントス時に、両チームのユニホーム等の確認をします。

- すべてのコートプレイヤーは、同一のユニホームを着用しなければなりません。
- すべてのゴールキーパーは、同色のユニホーム(シャツ)を着用しなければなりません。
- 交代地域にいるチーム役員は、相手チームのコートプレイヤーと、はっきりと区別できる色の服を着用しなければなりません。

競技開始前に、プレイヤーが危険な装飾品(ピアスやネックレスなど)を身に付けていないか確認しましょう。

ボールの点検



ボールは2個以上用意しなければなりません。レフェリーが使用するボールを選びます。予備のボールは、タイムキーパーおよびスコアキーパーに渡し、ジャッジズテーブルに置いておき、いつでも使用できるようにしておきましょう。

ウォーミングアップ

両チームと同じ時間に、サイドライン沿いにウォーミングアップを行きましょう。競技会場の雰囲気と両チームの様子、**出場するプレイヤーが着用する装具や体に身に付ける金属製品等の確認をする機会**にもなります。通信機器を使用する場合は、事前準備を忘れずに。



競技場の点検

コート周辺の安全地帯や交代ベンチおよびジャッジズテーブルのような限られた場所を注意して点検しましょう。

ゴールは特に重要です。競技の開始直前に点検することは避けなければなりません。ゴールはしっかりと固定されているか、ゴールネットやキャッチネットに問題はないか、あらかじめ確認しておきましょう。



チーム

- 競技の開始時に、チームは5名以上のプレーヤーを出場させなければなりません（競技規則 4:1）
- チーム役員は 5 名まで。A～E までの ID を身につけておかなければなりません。
- チーム責任者 (A) を確認します。



4 競技開始

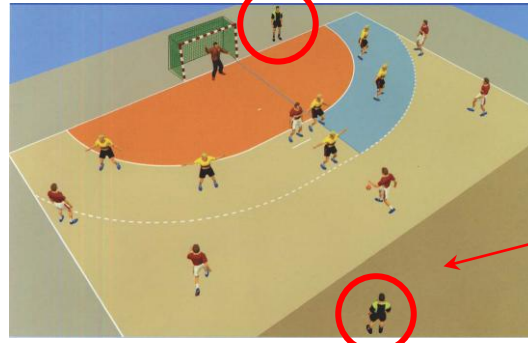


競技開始前の手順は、リーグや大会の種類によって大きく異なりますので、大会主催者にあらかじめ確認しておきます。オフィシャルとの連携や、通信機器の状態についても、開始前に必ず確認しましょう。

競技開始時には、レフェリーペア同士、タイムキーパー、スコアキーパーと手短にアイコンタクトをし（すべての人が準備できたら腕をあげる）、コートレフェリーは競技開始の笛を吹くと同時に、公示時計が動いたことを確認しましょう。

5 競技中の役割

ゴールレフェリー



コートレフェリー

2人のレフェリーは、競技中「コートレフェリー」と「ゴールレフェリー」という2つの役割を、攻防の移動に合わせて務めます。競技中のコートレフェリーとゴールレフェリーは、役割は分担されていますが、「権限と責任」は同じです(競技規則 17:1)。二人で警告、退場、失格および特別な事項の記録を行い、得点および競技時間を管理し、競技を進行していきます(競技規則 17:8、9)。

コートレフェリー

競技は、コートレフェリーが「スローオフ」の笛を吹き、開始となります。スローが行なわれるとき、再開の笛が必要とされる場面(競技規則 15:5)、あるいは再開の笛が必要であると判断した場合においては、コートレフェリーが笛を吹きます。コートレフェリーは、基本的にはバックコートやウイング(サイド)において、主にボールのある位置の観察を行います

基本の位置取り

- バックコートプレイヤーの後方に位置する。
- ゴールレフェリーと対角線上に位置する。
- DF 隊形によって変化するコートの広がりや奥行きに応じて、位置を取る(動く)。

基本的役割

1. ボールに対しての反則を罰する。
2. スローの実行(スローオフ、7m スロー、フリースロー)。
3. 必要に応じて再開の笛を吹く。
4. タイムアウトを決定したとき、タイムキーパーと確認を行う。

コートレフェリーは、ボールの動きを中心に追います。競技中は基本的なポジションとして、ゴールレフェリーと対角線上の位置を一貫して取り、防御側プレイヤーと攻撃側プレイヤーの間のスペースを観察します。バックコートプレイヤーの邪魔をしないよう心掛けなければなりません。

コートレフェリーは積極的な防御に対しては、位置を変化させなければなりません。コートレフェリーは、ボールに近いところの反則とスロー(スローオフ、フリースロー)を担当しますが、7mスローの判定はゴールレフェリーの役割です。コートレフェリーが行ってはいけません。

ゴールレフェリー

ゴールレフェリーの主な役割は、得点の決定をすることです。ボールがゴールに入ったら、ゴールレフェリーは、コートレフェリーとアイコンタクトを取ります。コートレフェリーが同意して腕を上げたら、ゴールレフェリーが笛を短く 2 回吹き、ジェスチャー 12 を行なってゴールを認めます。その後、ゴールレフェリーはコートレフェリーとなり、スローオフの笛を吹き、競技を継続していきます。ゴールレフェリーはコートレフェリーとは対照的に、ゴールエリアに沿ったエリアに集中し、主にボールのない位置のプレーを観察します。



ジェスチャー 12

基本の位置取り

- 一般的にアウターゴールラインに沿って位置する。
- およそゴールからサイドラインの方向へ 3m 離れる。
- 状況に応じて位置取りを変える。
 - * 防御がゴールから離れたの防御隊形をとったならば（例えばマンツーマン防御）、コート内に位置を取ることもある。

基本的役割

1. アタッカーおよび防御側プレーヤーが、ゴールエリアに侵入していないかを観察する。
2. フリースローラインとゴールエリアラインの間のエリアで、1 対 1 の攻防の状況を観察する。
 - * ゴールエリア際の判定は、ゴールレフェリーが判定する。
3. 得点を認める（笛を2回）。
4. 7mスローの判定



ボールがコートレフェリーのサイドにあるとき、ゴールレフェリーは、ボールのないエリアの動きを観察し続けなければなりません。例えば、ボールのないサイドから進入してきたプレーヤーは、ボールのないところで防御と攻撃を始めるため、この状況を進入前から観察する必要があります。

またピボット（ポスト）プレーヤーと防御側プレーヤーとの攻防は、防御側も攻撃側も反則を犯す可能性があります。そのためゴールレフェリーは、ボールのないところでの動きに常に目を配らなければなりません。

ピボットプレーヤーとの攻防に関しては、ゴールレフェリーだけでなくコートレフェリーと連携して管理する必要があります。通信機器などを上手く活用しましょう。

判定の手順 ジェスチャー

判定する時の手順は、①笛 ②方向指示 そして必要に応じて③ジェスチャー です。ジェスチャーは競技規則にある正しいものを用います。もし二人のレフェリーが「差し違え」をしてしまったときは、必ずタイムアウトを取り、ペアで協議をして、改めて正しい判定を示すようにしましょう。

警告や退場を判定したときはその理由を、観客も含めた全体にハッキリと分かりやすい(伝わりやすい)ボディランゲージを用いて、大きく一度、落ち着いて示すことが望ましいです。

立ち居振る舞い

笛はペアで同じものを使用しましょう。カラフルなものは避け、黒い笛を用意します。長い時間、笛を口に入れたままにしたり、笛をくわえたままプレーを観察したりすることがないように心がけましょう。また、コート上で腕を組んだり、両手を腰に当てたり、ポケットに手を入れる等の姿勢も避けましょう。「休め」の体制や、前傾姿勢での観察も、良い立ち居振る舞いとは言えません。

得点の管理 時間の管理

得点が入ったら、すぐに得点板もしくはデジタイマ上の得点に正しく表示されているかを確認する習慣をつけましょう。着地のシュートを判定したときなど、紛らわしい場面ではジャッジズテーブルが気付いていないときもあります。得点が誤って追加されていないかを、必ず確認します。

時間の管理もジャッジズテーブルに任せきりにせず、試合開始時、タイムアウト時、再開時、どちらか一方のレフェリーが必ず公示時計をチェックしたり、タイムキーパーとのアイコンタクト等をしたことが大切です。

7m スロー実施時の動き方・役割

コート レフェリー

- 1) スローを行うプレイヤーの「利き腕側」に立ち、スローを行うプレイヤーの基準足の位置を確認する。
- 2) スローを行うプレイヤーの「基準足」が観察でき、かつ「シュートの軌道とゴールキーパーの動きが正しく観察できる位置」に、「素早く」移動する(スローの斜め後ろの位置にあらかじめ位置を取るのが良い)。

ゴール レフェリー

- 1) 基本の位置を取り、シュートされたボールがゴールラインを完全に超えたかを判定する。

両レフェリーの協働作業

- 1) 各種スローの実施を正しく行うことができるかどうかの責任は「コートレフェリー」にある。
- 2) ゴールレフェリーはゴールキーパーの真横になり、仮にボールがゴールキーパーの頭部付近に当たった場合、ゴールキーパーの動きとボールが当たった位置を正しく判断できない可能性がある。そのため、コートレフェリーが上記のような位置を取ることで、より正しい観察、正しい判定につなげることができる。

スローオフ時の基本的なポジション

次の連続写真は、ゴールレフェリーがゴールインのジェスチャーと合図をした(写真 1)後に、センターライン方向へ走っていく場面です(写真 2 以降)。スローオフエリアに向けてボールが送られる状況を、しっかりと観察できるようにします。また、センターライン付近にいる両チームのプレーヤーが正しい位置にいるのか観察すること、目の届かない位置に(背後など)に両チームのプレーヤーを残さないなど、死角を作らない工夫が必要です。写真 7 では止まった状態で笛を吹いていますが、攻撃側チームが素早くスローオフを実施することもあるため、走りながらスローオフの笛を吹くことも多いと思います。戦術的に素早いスローオフを繰り返したり、コート上にゴールキーパーがいない(エンプティゴール)状況でスローオフが実施されたりする時など、瞬時に複雑な状況を観察する必要が生じることも多くあります。瞬時に良いポジションをとれるように、工夫していきましょう。



ゴールレフェリーがコートレフェリーのポジションにつくときの動き方(スローオフの笛を吹く場合)

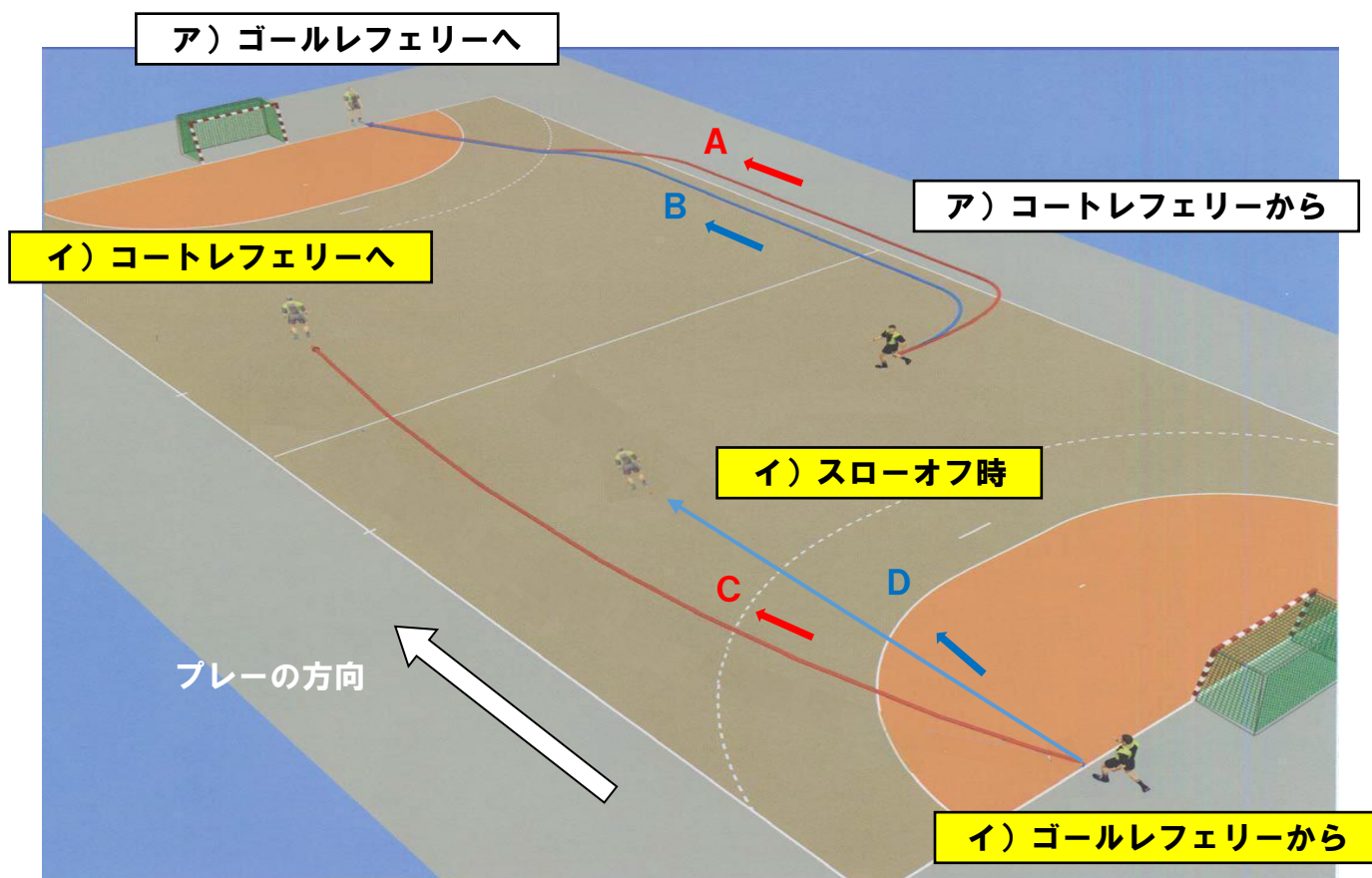
位置の取り方 ランニングテクニック

レフェリーの基本的な立ち位置、動きを常に意識しましょう。コートレフェリーは、判定の後素早くポイントに移動する。ゴールレフェリーは、危険ですのでバックステップはしないこと。経験豊富なレフェリーの動きを参考にし、良い走法・位置取りが出来るようにしていきましょう。

レフェリーはコートレフェリーの位置からゴールレフェリーの位置に動くとき、プレーヤーに巻き込まれたり、プレーヤーやボールの移動の妨げとならないようにしましょう。また、背後のプレーを見落とさないよう、プレーが見えるように上半身をひねる工夫も必要です。

チーム間でボールの所持が変わる(ターンオーバー)時の走り方にも、工夫が必要です。コートレフェリーとし

て、ターンオーバー直前までコート中央にいたときは、プレーを観察できるように、サイドラインに向けて斜めに走りながら、ゴールレフェリーのポジションにつきます。急いでポジションを取りたい状況ですが、時には何が起きているか確実に見るために立ち止まらなければならないこともあります。



コートレフェリーがゴールレフェリーのポジションに動く(上図では、ア)のレフェリー経路)

- レフェリーは競技に常に視線を向けながら、速やかにサイドラインの方に移動する。
- 状況によっては、プレイヤーの妨げにならないようコートの外側を走行することもある(上図 A の経路)。
- もしコートの外側を走ることができなければ、サイドライン際を走る(上図 B の経路)。
- アウターゴールラインの基本ポジションへ素早く移動することよりも、競技を観察し続けることがより重要である。

ゴールレフェリーがコートレフェリーのポジションに動く(上図では、イ)のレフェリー経路)

- レフェリーは移動中、少なくとも周辺視野で確実にプレイヤーをとらえること。
- ストレートにセンターラインを越えて、プレーを追いかける(上図 C の経路)。
- スローオフの笛を吹くのに適当なポジションにつくため、得点后、全体が見渡せる位置に向かって走る(上図 D の経路)。
- レフェリーは笛を吹く前に、センターラインの後方で、もう一人のレフェリーと対角線上になるように位置を取る。



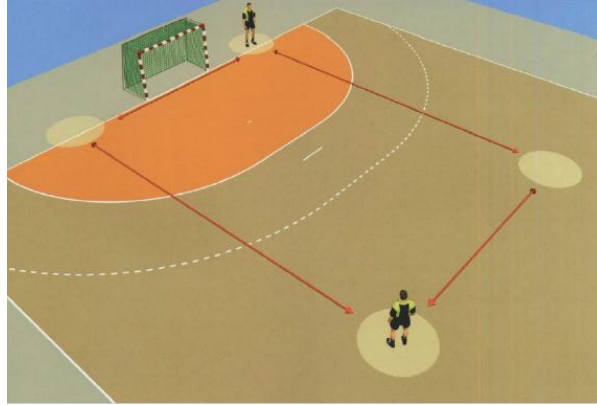
コートレフェリーがゴールレフェリーのポジションにつくときの動き方(コートの外側)



コートレフェリーがゴールレフェリーのポジションにつくときの動き方(コートの内側)

ポジションの交代

競技規則には書かれてはいませんが、レフェリーはポジションを交代し、観察する位置や視点を変え、同じチームのプレーばかりを観察しないような工夫が求められます。両レフェリーは少なくとも競技の前後半で、次の図に示した 4 つの基本的ポジションを取ることが求められます。



ポジションの交代に適したタイミングは

- 7m スロー
- 罰則を判定した時
- タイムアウトあるいはチームタイムアウト

* ゴールが決まった後のスローオフ時は、二人のポジション交代をしてはいけません!

特殊な状況での動き方・役割分担 ①エンプティゴール

7人攻撃を行う場合や自チームに退場者がいる場合、ゴールキーパーを下げ、ゴールキーパー不在の状況で攻撃を行う場面が多くみられます。この場合のコートレフェリーの位置取りや動きについては、注意が必要です。

コートレフェリーから反対のコート(のゴールレフェリー)に戻る際の最も良い走路は、選手の交替が行われるベンチとは反対側となります。この位置を取ることによって、コートに戻ってきたゴールキーパーとの接触や交代の妨害を避けることへと繋がります。もしもコートレフェリーがベンチ側に位置を取っている最中に、攻撃側チームがゴールキーパー不在の戦術を選択したならば、交代できる機会をゲームの流れの中から見つけなければいけません。位置の交代に適したタイミングとしては

- 攻撃側がシュートまでのきっかけを作るまでの間、あるいはゲームが中断している間に、両レフェリーのサイドを交代する。その際ゴールレフェリーは、ゴールの後ろを通過して移動すること
- コートレフェリーからゴールレフェリーに移動する際(攻防の切り替えのタイミングで)、コート中央付近からベンチの反対側に移動
- ゴールレフェリーとコートレフェリーがそのままサイドラインと並行に移動し、それぞれの役割を交代する

また、ボールを獲得したチームが直接ゴールを狙うという場面において、その妨げとなることがないように、レフェリーは注意しながら戻る必要があります。



特殊な状況での動き・役割分担 ②マンツーマン防御

- それぞれのレフェリーはコート異なるエリアを観察しなければならない -

競技の終盤、相手に追いつくために用いられる一般的な戦術として、オールマンツーマン防御があります。マンツーマン防御が行われたらコートレフェリーとゴールレフェリーの位置取りは、両チームのコートプレイヤーをよく観察して変える必要があります。

戦術として防御側がオールマンツーマン防御を選択したのであれば、上図に示されているように、ゴールレフェリーは基本的な位置を離れて、コートの中へと移動します。その際、コートレフェリーも含めて両レフェリーはサイドラインの方へと移動し、プレーを観察する



ために、かつプレイヤーがコートすべてを利用できるように、良い位置取りを考え移動しなければいけません。図中のレフェリーは、対角線上で見るために、より大きなエリアを分割しています。プレイヤーの位置によって、レフェリーも柔軟に適応する必要があります。例えば、プレーがゴール方向へ向けられた際に、必要ならばレフェリーは、コートの外へ動いて観察することも必要かもしれません。

6 プレーの中断 再開

「競技中(インプレー)」と「競技の中断中」

競技中(インプレー)に、得点が入った、ボールを所持したプレーヤーが違反を犯したときなどに、レフェリーは笛を吹きます。笛が吹かれると、競技は「中断中」という状態になります。

レフェリーは、笛を吹き「中断中」にすると、2 つのことを、笛を吹いた直後に決定しなければなりません。

- ボール所持はどちらのチームか
- 競技はどのように再開されるのか

例：スローオフ、ゴールキーパースロー、フリースロー、7m スローおよびスローイン

競技中(インプレー)の違反に笛を吹き「中断中」となった際にレフェリーは、プレーが再開される方向を示します(方向指示)。違反の種類を必ずジェスチャーで示す必要はありませんが、ボールの所持が変わる際の方向指示や、ゴールキーパースローのジェスチャー(ジェスチャー 8)は、チームにとって必要な情報です。例えば相手がゴールエリアに侵入したことによる規則違反の際には、ゴールキーパースローのジェスチャーは再開の仕方に関するとても重要なインフォメーションになります。

笛が吹かれていなくても、競技の「中断中」になる状況があります。例としては

- ボールがコートの外に出たとき
- ゴールエリア内で、ゴールキーパーがボールをコントロールしているとき
- ボールがゴールエリア内で止まったとき

競技の「中断中」から、「競技中(インプレー)へと再開するには

状況に応じ、競技規則 15 条にある「各種スロー」で再開されます。スローオフと 7m スローは必ず笛の合図で実施されますが、スローイン、フリースローおよびゴールキーパースロー時に、必ずしも「再開の笛」を吹く必要はありません。ただし、間違いを正さなければならないとき(例えば、スローが行われる際の位置の修正を行った後)には、笛が必要になります。修正をされたスローを再度実施する時には、必ずコートレフェリーから、笛の合図が必要です。

各種スローが行われるポイントを決定すること、およびスローのチームメイトと相手が正しいポジションにしているかを確認すること、これらもレフェリーの大事な仕事です。競技規則をしっかりと理解し、「中断中」のあの各種スローを正しく実施できるようにしましょう。

タイムアウトに伴う競技の中断

競技中に、必ず「タイムアウト」をとり、中断しなければならない状況があります。

2の8 タイムアウトをとるかは、レフェリーが決定する

次の場合は、必ずタイムアウトを取らなければならない

- (a) 2分間退場、失格を判定するとき
- (b) チームタイムアウトを認めたとき
- (c) タイムキーパーまたは TO から笛の合図があったとき
- (d) 競技規則 17:7 により、両レフェリーの協議が必要なとき

競技規則解釈2 必要に応じてタイムアウトを取ることができる。タイムアウトを取ることができる典型的な状況として、次のようなものがある。

- (a) コートを拭かなければならない場合など外的な影響があったとき
 - (b) プレーヤーが負傷したと考えられるとき
 - (c) チームが明らかな遅延行為をしているとき。例えば、チームが各種スローの実施に時間をかけている場合や、プレーヤーがボールを遠くに投げってしまう、あるいはボールを離さない場合
- …以下省略…

タイムアウトをとり、競技を中断する方法および手順

- タイムアウトによる競技中断のための笛を吹く際には、笛を吹きながらタイムキーパーの方向へ、タイムアウトのジェスチャー（ジェスチャー 15）をします。
- 2分間退場や失格を判定した時は、該当プレーヤーがコートを出るまでプレーを再開することはできません。

レフェリーが同時に、違う判定をした（差し違えた）ときは

もしも 1 つの違反に対して、あるいはボールがコートから出たときどちらのチームがボールを所持するかに対して、両レフェリーの見解が異なった場合は、必ずタイムアウトをとり、両レフェリーが近くに寄って協議をしなければいけません。その後、合意した判定を採用します。どうしても合意に達することができないときは、コートレフェリーの見解を優先します（競技規則 17:7）。

両レフェリーが、どちらのチームの違反としなければならないかについては一致しているが、罰則の重さについて見解が異なる場合には、**両レフェリーで協議の上決定した判定を適用します**。両レフェリーで合意ができなかった場合は、重い方の罰則を適用します（競技規則 17:6）。

7 プレーの観察

アドバンテージの原則

プレーを中断すると違反を受けたチームが不利になる場合、レフェリーは競技を早まって中断しないよう、プレーを継続させる。

プレーを止める

ボールコントロールを失ったなど違反を受けたチームがプレーを継続させることができない場合は、笛を吹き、プレーを中断する。

即座に笛を吹く

違反を受けたチームが不利にならないよう考慮する場合を除き、違反時には直ちに笛を吹かなければならない。

アドバンテージを優先する!

アドバンテージは、プレーヤーが違反を受けているにもかかわらず、正当な方法でプレーが継続できる場合に適用されます。アドバンテージが認められる例としては、以下の状況が挙げられます。

- ボールを所持したプレーヤーが、違反を受けてはいるもののチームメイトにパスすることができる。
- ボールを所持したプレーヤーが、違反を受けてはいるものの体のバランスを保ち、完全にボールをコントロールした状態でシュートを打つことができている。
- ボールを所持していないプレーヤーに対して違反があるものの、ボールを所持している味方プレーヤーは、シュートを打つことができた。
- 防御側に違反があったが、ボールを所持しているプレーヤーは違反を犯すことなくシュートを打つことができ、ボールはゴールに入った。

しかしながら以下のような場合、レフェリーは直ちに笛を吹き、競技を中断しなければなりません。

- 違反を受けたチーム、プレーヤーがプレーを継続させることができなくなった（例えば、ボールを所持したプレーヤーが相手によって捕まえられたとき、あるいは、アドバンテージを認められている攻撃側プレーヤーがオーバーステップなどの違反をしたなど）場合。
- すでにボールを扱うことができなくなった（プレーヤーがボールに覆いかぶさっている、あるいは、ボールがコート外に出たなど）場合。

ハンドボールにおける最も重要な原則は、アドバンテージを優先させること。もちろんアドバンテージを適用した後には、違反を犯したプレーヤーへの口頭などでの注意や罰則の適用を忘れてはいけませんが、違反が起きたからといって、違反を犯したチームを有利にする笛を吹いてはなりません。

競技をより理解し、「意図的に」笛を吹くことを差し控える。これが、アドバンテージです。

8 ハーフタイム

前半が終了したら、レフェリーは得点や罰則の確認をします。最初はペアで、その後にスコアキーパーと得点、警告、退場などの罰則を照らし合わせます。試合球は回収し、ジャッジズテーブルの上に置いておきましょう。

後半開始前に軽いウォーミングアップを行えるように、余裕をもってコートに戻ります。ジャッジズテーブルに



必ず出向き、後

半開始に向けたコミュニケーションをとりましょう。改めてゴール・ゴールネット等の確認をします。

後半開始のためのスローオフの笛を吹く前には、コート内とベンチの交代プレイヤーの人数を確認しましょう（前半からの退場プレイヤーの退場時間は、後半に持ち越されます）。確認した後、レフェリーはそれぞれの位置につき、コートレフェリーとなるレフェリーが、後半開始の笛を吹きます。会場の時計が動いているかの確認も忘れずに行いましょう。



9 競技終了

記録用紙を完成させる

コートを離れてロッカールームに戻る前にまず、レフェリーペア同士さらにスコアキーパーと共に最終スコアの確認を行います。スコアキーパーと共に記録用紙に記録された警告、退場、失格およびその他の特別な事項を照らし合わせます。TOと共に記録用紙が正確に仕上がっていることを確認し、競技規則8:6や8:10に該当する失格については、報告書を作成します。

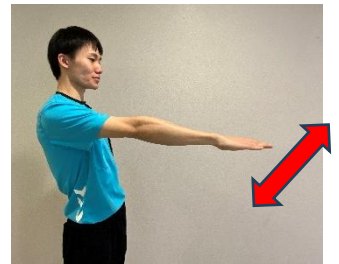
レフェリーは競技終了後もチームが競技場を離れるまでは、管理する立場であることを意識しておきましょう（競技規則17:2）。競技後の特別な事項についても処罰し、記録する必要があります（プレイヤーや役員の侮辱行為など）。競技終了の笛の後、特記事項は記録用紙に記録する必要があります。



10 ジェスチャーの解説

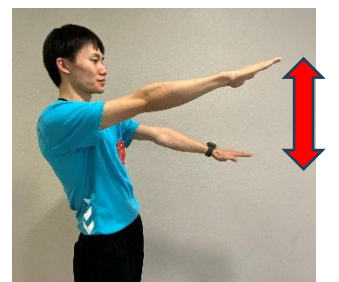
1. ゴールエリアへの侵入

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、ゴールエリアに向かって片腕を前方に伸ばし、左右に大きく振る。



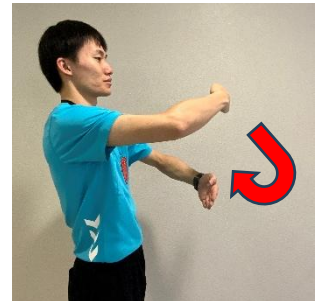
2. イリーガルドリブル(不正ドリブル)

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、前方に両腕を伸ばして上下に振る。



3. オーバーステップ、オーバータイム

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、身体の前で両腕を回転させる。



4. ホールディング、プッシング

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、身体の前で両肘を張って両拳を突き合わせる。



5. ハッキング

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、前方に伸ばした片腕の手首を他方の手でたたく。



6. オフェンシブファール(攻撃側の違反)

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、肘を曲げて頭上にあげた片腕の手のひらを他方の手の拳でたたく。



7. スローイン(方向指示)

身体の前方に両腕を平行に伸ばし、スローを行う方向を指示する。



8. ゴールキーパーズスロー

片腕を前方に伸ばし、手首を曲げて指先をゴールエリアに向ける。



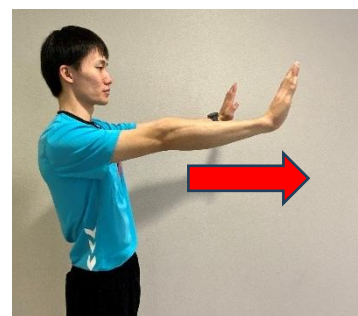
9. フリースロー（方向指示）

身体の前方に片腕をやや上方に伸ばし、スローを行う方向を指示する。



10. 3m の距離の確保

手のひらを前方に向けて出した両腕を伸ばす。



11. パッシブプレー

どちらのチームがボールを所持するかについて方向を指示した後、前方に伸ばした片腕の手首（腕時計の位置）を他方の手のひらで押さえる。



12. 得点

片腕をまっすぐ上方に伸ばす。



13-1. 警告（イエローカード）、失格（レッドカード）

片手にカードを持ち、その腕をまっすぐ上方に伸ばす。他方の腕は前方に伸ばして、対象となるプレーヤーまたはチーム役員を指す。



13-2. 報告書を伴う失格

（レッドカード+ブルーカード）

「この失格は、報告書を伴うものである」とレフェリーが判断したならば、レッドカードに続いてブルーカードを示す。ただし、カードを示す前に、ペアで短時間の相談を行う必要がある。

14. 退場（2 分間）

2本の指（人差し指と中指）だけを伸ばした手をまっすぐ上方に高くあげる。他方の腕は前方に伸ばして、対象となるプレーヤーまたはチーム役員を指す。



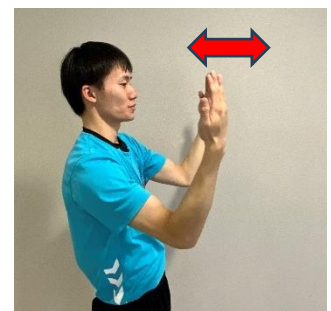
15. タイムアウト

頭上で両手を使って「T」字形を作る。



16. タイムアウト中における（「参加資格」のある）2名のコートへの入場許可

手の甲を前方に向けて出した両腕を伸縮させ、両手を前後に動かす。



17. パッシブプレーの予告合図

手のひらを正面に向け、前腕が垂直に、上腕が水平になるように肘を直角に曲げた片腕を横にあげる。この場合、チームベンチに近い方の腕をあげる。



11 用語の解説

ライン・エリア

コート

両チームのプレーヤーで競技を行う、長さが縦 40m、横 20m の長方形の領域を指す。

プレーイングエリア

コートのうち、ゴールエリア以外の領域(1ヶ所)を指す。

ゴールエリア

各ゴールの前に位置し、ゴールエリアラインで区画された領域(2ヶ所)を指し、各チームのゴールキーパーだけが入ることを許される。

サイドライン

コートの縦 40m のライン(2本)を指す(幅 5cm)。

アウターゴールライン

コートの横 20m のライン(2本)のうち、各ゴールの両外側の部分(2本×2ヶ所=4本)を指す(幅 5cm)。

ゴールライン

ゴールポスト間の長さ 3m、幅 8cm のラインを指す。

センターライン

両サイドラインの midpoint を結ぶライン(長さ 20m、幅 5cm)を指し、自陣と相手陣の境界を示す。

スローオフエリア

センターラインの中央に配置する、直径4mの円を指す。スローオフ時、スローオフを行うチームのプレーヤーだけが入ることを許される。

ゴールキーパーライン(4m ライン)

ゴールの正面に、ゴールラインから 4m の距離に引いた長さ 15cm のラインを指し、ゴールキーパーは 7m スローを防御するときにこれを越えてはならない。

ゴールエリアライン(6m ライン)

ゴールから 6m の距離に引いたラインを指し、ゴールエリアを区画する。

フリースローライン(9m ライン)

ゴールエリアラインと平行・同心円状に、ゴールから 9m の距離に引いた破線状のラインを指し、攻撃側プレーヤーはフリースローの時にこれを踏むことも踏み越すこともできない。

7m ライン

ゴールの正面に、ゴールラインから 7m の距離に引いた長さ 1m のラインを指し、7m スローを行うプレーヤーはこのラインの手前から後方 1m までの範囲内に基準足を置き、スローを行わなければならない。

交代ライン

交代地域側のサイドラインのうち、センターラインからそれぞれ 4.5m ずつの部分(2ヶ所)を指し、プレーヤーはセンターラインとこのラインの間を通過して交代地域からコートへ出入りすることが許される。

交代地域

各チームの交代プレーヤー、退場中のプレーヤー、および 4 名のチーム役員だけがいることを許される領域を指し、サイドラインの外側でセンターラインの延長線からチームベンチの終端までを指す。

時 間

競技中(インプレー)

競技時間が計測され、プレーが続行している状態を指す。

競技の中断中

競技が中断している状態(インプレーでない、あるいはゴールエリア内でボールが止まっている状態)を指し、各種スローにより競技を再開する。この間は、競技時間が計測されている場合とタイムアウト中の場合がある。

タイムアウト

レフェリーが競技時間を中断している状態を指す。

チームタイムアウト

各チームは、正規の競技時間中の前半と後半に、1回ずつ、試合ごとに最高3回まで、かつ前半・後半それぞれにおいて最高2回まで、1分間のチームタイムアウトを取る権利がある(大会により、回数の規定が異なる場合がある)。

ハーフタイム

競技の前半と、後半の間の休憩時間を指す。

タイムアップ(ノータイム)

競技時間の終了を指す。

プレーヤー

オフENS

攻撃側を指す。

ディフェンス

防御側を指す。

相 手

相手チームのプレーヤーを指す。

コートプレーヤー

プレーイングエリアで攻撃・防御活動をするプレーヤーを指す。

ゴールキーパー

ゴールエリア内で、攻撃側プレーヤーのシュートを阻止することができるプレーヤーを指す。

交代プレーヤー

競技中、味方のプレーヤーと交代して出場するために交代地域で待機するプレーヤーを指す。

ボールの扱いの違反

オーバーステップ

ボールを持って 4 歩以上歩くことを指す。

オーバータイム

ボールを 3 秒より長く手に持つことを指す。

キックボール

膝より下の足の部位でボールに触れることを指す。ただし、相手チームのプレーヤーから投げつけられた場合を除く。

イリーガルドリブル(ダブルドリブル)

床にボールをはずませてキャッチした後、再びボールを床にはずませてからボールに触れることを指す。

パッシブプレー

無意味なパスやドリブルをして、攻撃しよう、あるいはシュートしようという意図を示さずにボールを所持し続ける消極的な攻撃法を指す。

相手に対したときの違反

ホールディング

相手を抱えること、あるいはつかむことを指す。

プッシング

相手を手や身体で押すことを指す。

ハッキング

相手をたたくことを指す。

オフENSIVEファール

相手(防御側プレーヤー)に対する攻撃側プレーヤーの違反を指す。

- ① 攻撃側プレーヤーが、腕、手、足を使って防御側プレーヤーの動きを阻止すること、あるいは押し出すこと
- ② 攻撃側プレーヤーが防御側プレーヤーを抱えること、つかむこと、あるいは押すこと
- ③ 攻撃側プレーヤーが走って、あるいはジャンプして防御側プレーヤーにぶつかること(チャージング)
- ④ 攻撃側プレーヤーが規則に違反して防御側プレーヤーを妨害すること、あるいは危険にさらすこと、が挙げられる。

フット オン フット

シュートを打とうとしている相手プレーヤーの足の下に、防御側プレーヤーの足が入ってしまう状態。

ロング ステップ

シュートを打とうとしている相手プレーヤーに対し、先に大きく足を踏み込むこと。

各種スロー

スロアー

ボールを手に持ち、規則で定められた位置から各種スローを行う攻撃側プレイヤーを指す。

スローオフ

前後半の開始のとき、および得点された後に競技を再開するとき、センターラインの中央でレフェリーの笛の合図から 3 秒以内に行うスローを指す。

スローイン

ボールがサイドラインを通過したとき、防御側チームのコートプレイヤーが最後にボールに触れて自陣のアウトゴールラインを通過したとき、あるいはコート上方の付属設備や天井にボールが触れたとき、サイドラインを踏んで行うスローを指す。ボールがラインを通過する前、あるいは付属設備や天井に触れる前に、最後にボールに触れたプレイヤーの相手チームがスローを行って競技を再開する。

ゴールキーパーズスロー

ゴールエリア内でゴールキーパーがボールをコントロールしたときやゴールエリア内でボールが静止したとき、あるいはゴールキーパーか相手チームのプレイヤーが最後にボールに触れた後にボールがアウトゴールラインまたはゴールの上を通過したとき、競技を再開するためにゴールキーパーがゴールエリアから行うスローを指す。

フリースロー

違反したプレイヤーやチーム役員の相手チームに与えられ、原則として違反のあった地点から、レフェリーの笛の合図なしで行うスローを指す。ただし、違反の起こった場所よりも相手チームにとって有利な位置にボールがあった場合は、競技を中断したときにボールがあった位置からスローを行って競技を再開する。また違反の起こった位置が自陣のゴールエリアの中や相手のフリースローラインの内側であった場合には、それぞれの規定された領域のすぐ外側で最も近い地点に移動してスローを行う。加えて、違反がなくても競技が中断した場合に、競技の再開方法としてフリースローを用いる。

7mスロー

7mラインの手前からゴールキーパーと 1 対 1 で行うスローを指す。明らかかな得点チャンスを相手チームのプレイヤーやチーム役員、または競技に関与していない人が妨害したとき、あるいは明らかかな得点チャンスの際に不当な笛が鳴ったときに与えられる。

罰 則

警 告

相手に対する違反やスポーツマンシップに反する行為などに対して与えられる罰則を指す。個人に対しては 1 回、チームに対しては合計 3 回、チーム役員に対しては合わせて 1 回を限度として与えられる。これ以降は退場あるいは失格となる。

退 場

相手に対する違反やスポーツマンシップに反する行為を繰り返した場合や、不正交代・不正入場の場合などに与えられる罰則を指す。コート上のプレイヤーがこのような違反をした場合には 2 分間出場停止となり、交代地域で着席して待機し、その間チームは代替りのプレイヤーを補充できない。また、交代地域にいるプレイヤーやチーム役員が退場となった場合は、チームはコート上のプレイヤーを 2 分間 1 名減らさなければならぬ。

失 格

同一のプレーヤーが 3 回目の退場となったとき、相手に危害を及ぼすような違反をしたとき、または著しくスポーツマンシップに反する行為をしたときなどに与えられる罰則を指す。違反したプレーヤーやチーム役員は、直ちに交代地域からも去らなければならない。チームはコート上のプレーヤーを 2 分間 1 名減らさなければならない。

競技役員

レフェリー(審判員)

競技を全体的に管理するとともに、違反の判定を行う 2名の競技役員を指す。

コートレフェリー

オフENSEの背後から、主にボールの扱い方やプレーヤーの動作に関する違反を管理するレフェリーを指す。

ゴールレフェリー

アウトターゴールラインの外側から、主に得点の認定とゴールエリアへの侵入を管理するレフェリーを指す。

TO(テクニカルオフィシャル)

競技委員長のもと、競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するために、レフェリー、開催地競技役員(タイムキーパー、スコアキーパー)・補助役員と協力し、当該の試合を管理する MO(マッチオフィシャル)および TD(テクニカル・デレゲート)の総称。TO は、競技大会を主催する協会または連盟が指名する。

MO(マッチオフィシャル)

当該競技が、競技規則、大会要項に沿って行われるよう全体的な責任を負う立場の者を指す。

TD(テクニカル・デレゲート)

開催地タイムキーパー及びスコアキーパーとともに、試合進行の技術的な部分を担当する立場の者を指す。試合では、タイムキーパーを担う TD とスコアキーパーを担う TD に分かれ、業務にあたる。

タイムキーパー

試合では、主催者または連盟が指名するタイムキーパーを担う TD と、開催地が任命するタイムキーパーが存在、業務にあたる。

タイムキーパーを担うTD

開催地タイムキーパーと互いに協力しながら技術的ミスの防止に努めつつ、得点、競技時間、退場時間等公式計時(得点、時計)の動作が的確に行われているかの確認および自身が座る側の交代地域を管理する TD を指す。

開催地タイムキーパー

当該試合において、公式計時の操作を行う者を指す。

スコアキーパー

試合では、主催者または連盟が指名するスコアキーパーを担う TD と、開催地が任命するスコアキーパーが存在、業務にあたる。

スコアキーパーを担うTD

開催地スコアキーパーと互いに協力しながらミス防止に努め、チームの登録名簿、記録用紙、競技開始後に到着したプレイヤーの入場、参加資格のない者などの管理をしつつ、自身が座る交代地域を管理する TD を指す。

開催地スコアキーパー

得点の正しい記入、公式計時との整合性が取れているかなどの確認を行う者を指す。

その他

コイントス

競技の開始前、スローオフとサイドを決定する抽選を指す。レフェリーがコインを投げて行う。

ゴール

各アウトターゴールラインの中央に位置し、ゴールポストとクロスバーにより作られた設備を指す。

ゴールイン

攻撃側プレイヤーが規則に違反することなく、ボールがゴールを完全に通過することを指す。これにより得点が与えられる。

ラインクロス

コートプレイヤーがゴールエリアに侵入する違反を指す。

アドバンテージルール

防御側チームの違反により攻撃側チームがボールの所持を失ったこと、あるいは攻撃を継続できないことが判明するまで競技の中断を待つという規則、および攻撃側チームの違反の直後に防御側チームがボールを所持した場合、競技を中断しないという規則を指す。違反に対して罰則が必要なとき、中断により違反したチームの相手が不利になる場合は、罰則の適用を待つ。



令和 8 年度(2026 年度)C 級公認審判員の目標

C 級審判員は、公式試合（ブロック大会レベル）への参加資格が与えられる。ブロック大会は、各都道府県の代表チームの対戦であり、また全国大会の予選会である場合がほとんどである。

そのような公式試合を担当するためには、競技規則に則って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を十分理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において 8 割以上の正答率（B 級審判員認定に必要）が求められる。

以下に C 級審判員が十分理解し、実践すべき事項について記載する。

<大会への参加>

- 1) 審判会議、代表者会議に出席し、その大会における申し合わせ事項などの共通認識を図る。
出席にあたっては、ブレザー・ネクタイを着用する（本協会制定のものを推奨する）。
- 2) 大会審判員としての自覚を持つこと。所属都道府県の応援をしたり、他のレフェリーの批判をしたりするのは慎む。観衆、チーム関係者に見られていることを忘れない。

<試合開始時>

- 3) トスには指定された時間に両レフェリー・TD が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうかを確認する。
- 4) ユニホームの確認を TD と共にする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服装についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

<試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

<試合中>

○ 得点の管理，時間の管理

- 10) 得点の管理は、掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合，得点が誤って追加されていないか確認する。
また，時間の管理は試合開始時，タイムアウト時，再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 11) CRとGRの基本的な立ち位置や動きを意識する。
CRは判定の後にポイントに素早く移動する。
GRへの移動時，バックステップ走法は動きが遅く，非常に危険を伴うため用いない。
- 12) 7mスローの際，コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立ち，素早く移動し，シュートの軌道とGKの動きが正しく観察出来る位置をとる。

○ 判定の手順，ジェスチャー

- 13) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

- 14) 2人のレフェリーは，同じ種類の笛を使用する。長い時間，笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで，プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

- 15) ゴールエリアライン際の判定は，ゴールレフェリーが判定する。
- 16) ピボットプレイヤーの観察は，コートレフェリー，ゴールレフェリーで連携する。

○ 競技規則の正しい運用

- 17) 警告，退場を判定した際は，その理由をボディランゲージで大きく示す。
- 18) 指し違えたときは，必ずタイムアウトを取り2人で協議する。

<試合終了後>

- 19) 試合終了の挨拶（両チーム役員・オフィシャル）をして，公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 20) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。



< C 級公認審判員チェックリスト >

試合前、確認チェック☑	特に課題とする項目に○	終了後でできた項目☑
-------------	-------------	------------

◆大会への参加			
○ 審判会議、代表者会議に参加し、申し合わせ事項等の共通理解を図る			
○ 大会審判員としての自覚を持つこと。常に見られていることを忘れないこと			
◆試合前			
3)両レフェリー、TD が立ち合いのもとトスを実施			
3)メンバー表、登録証、(試合開始前の)公式記録用紙の確認			
4)ユニホームの確認(濃淡・デザインがはっきりしたもの:チーム同士、レフェリーウェアとチーム)			
4)チーム役員のウェアの確認(相手チームのコートプレーヤーと重複していないか)			
5)ウォーミングアップは、選手と共にペアで行う			
6)ゴールやゴールネット、ボールの点検(事前に)			
7)オフィシャルとの連携(業務の確認、得点、罰則、時間の管理について)			
◆試合開始前			
8)メンバーチェックを登録証とともに行う			
9)選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶			
◆試合中			
得点の管理、時間の管理			
10)得点の管理は出来ているか(得点のたびに確認しているか)			
10)目視による公示時計の動作確認(どちらかが、試合開始時、タイムアウト時、再開時に)			
走法と位置取り			
11)基本的な立ち位置や動きを意識しているか			
11)コートレフェリー時:判定の後に素早くポイントに移動しているか			
11)ゴールレフェリーへの移動時:バックステップを用いることなく移動しているか			
12)7m スローの際のコートレフェリー:スロアーの利き腕側・GKを観察できる位置にいるか			
判定の手順、ゼスチャー			
13)①笛 ②方向指示 ③(必要に応じて)ゼスチャー の判定の手順を守っているか			
13)正しいゼスチャーを用いているか			
立ち居振る舞い			
14)ペアで同じ種類の笛を使用しているか			
14)笛を口にくわえたまま、プレーを観察していないか			
役割分担			
15)ゴールエリアライン際の判定は、ゴールレフェリーが判定しているか			
16)ピボットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか			
15)、16)について、通信機器を有効に活用できているか			
競技規則の正しい理解			
17)警告や退場を判定する際、その理由をボディランゲージを用いて大きく示しているか			
18)差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議 をしているか			
◆試合終了後			
19)両チーム役員やオフィシャルと挨拶			
19)公式記録用紙に正しく記入されているか確認後、サイン			
20)大会審判長や他のレフェリーへ助言を求める			
20)審判手帳に担当試合を記載し、審判長に捺印をお願いする			



令和 8 年度(2026 年度)D 級公認審判員の目標

D 級審判員は、公式試合（都道府県大会レベル）への参加資格が与えられる。公式試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営こと、および試合を運営するための基本となる技術を理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において 6 割以上の正答率（C 級審判員認定に必要）が求められる。

以下に D 級審判員が公認審判員として理解し、実践すべき事項について記載する。

<試合前>

- 1) 遅くとも、試合開始時刻の 1 時間前までに会場に到着できるように移動する。
- 2) 大会本部に挨拶をし、控室にて更衣をするなど準備をする。
- 3) トスには指定された時間に両レフェリー、TD が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合開始直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 4) ユニホームの確認をする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の服の色についても助言する。レフェリーウエアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと（得点、罰則、時間の管理について）。

<試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

<試合中>

○ 得点の管理、時間の管理

- 10) 得点の管理は、掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。
着地シュート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。
また、時間の管理は試合開始時、タイムアウト時、再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

○ 走法と位置取り

- 1 1) CR と GR の基本的な立ち位置や動きを意識する。
CR は判定の後にポイントに素早く移動する。
GR への移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 1 2) 7m スローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立ち、素早く移動し、シュートの軌道と GK の動きが正しく観察出来る位置をとる。

○ 判定の手順, ジェスチャー

- 1 3) 判定の手順を守る。
①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

○ 立ち居振る舞い

- 1 4) 2 人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたまま、プレーを観察することがないように。

○ 役割分担

- 1 5) ゴールエリアライン際の判定は、ゴールレフェリーが判定する。
- 1 6) ピボットプレイヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。

○ 競技規則の正しい運用

- 1 7) 警告、退場を判定する際は、その理由をボディランゲージで大きく示す。
- 1 8) 指し違えたときは、必ずタイムアウトを取り 2 人で協議する。

<試合終了後>

- 1 9) 試合終了の挨拶 (両チーム役員・オフィシャル) をして、公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 2 0) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。
審判手帳に記載する。
審判長に捺印をお願いする。



< D 級公認審判員チェックリスト >

	試合前、確認チェック☑	特に課題とする項目に○	終了後できた項目☑
◆試合前			
1)遅くとも、試合開始時刻の1時間前までに会場に到着			
2)会場に着いたら大会本部に挨拶し、控室にて準備(更衣、ストレッチなど)			
3)指定された時間に、両レフェリー、TOが立ち合いのもとスを実施			
3)メンバー表、登録証、(試合開始前の)公式記録用紙の確認			
4)ユニホームの確認(濃淡・デザインがはっきりしたもの:チーム同士、レフェリーウェアとチーム)			
4)チーム役員のウェアの確認(相手チームのコートプレーヤーと重複していないか)			
5)ウォーミングアップは、選手と共にペアで行う			
6)ゴールやゴールネット、ボールの点検(事前に)			
7)オフィシャルとの連携(業務の確認、得点、罰則、時間の管理について)			
◆試合開始前			
8)メンバーチェックを登録証とともにを行う			
9)選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶			
◆試合中			
得点の管理、時間の管理			
10)得点の管理は出来ているか(得点のたびに確認しているか)			
10)目視による公示時計の動作確認(どちらかが、試合開始時、タイムアウト時、再開時に)			
走法と位置取り			
11)基本的な立ち位置や動きを意識しているか			
11)コートレフェリー時:判定の後に素早くポイントに移動しているか			
11)ゴールレフェリーへの移動時:バックステップを用いることなく移動しているか			
12)7mスローの際のコートレフェリー:スローの利き腕側・GKを観察できる位置にいるか			
判定の手順、ゼスチャー			
13)①笛 ②方向指示 ③(必要に応じ)ゼスチャーの判定の手順を守っているか			
13)正しいゼスチャーを用いているか			
立ち居振る舞い			
14)ペアで同じ種類の笛を使用しているか			
14)笛を口にくわえたまま、プレーを観察していないか			
役割分担			
15)ゴールエリアライン際の判定は、ゴールレフェリーが判定しているか			
16)ピボットプレーヤーと防御プレーヤーの攻防を、ペアで連携し観察できているか			
15)、16)について、通信機器を有効に活用できているか			
競技規則の正しい理解			
17)警告や退場を判定する際、その理由をボディランゲージを用いて大きく示しているか			
18)差し違えた場合、必ず①タイムアウト ②ペアで協議をしているか			
◆試合終了後			
19)両チーム役員やオフィシャルと挨拶			
19)公式記録用紙に正しく記入されているか確認後、サイン			
20)大会審判長や他のレフェリーへ助言を求める			
20)審判手帳に担当試合を記載し、審判長に捺印をお願いする			



撮影協力：2023年度レフェリーアカデミー生

※ レフェリーアカデミー

国際レフェリーの育成、および将来国内トップレフェリーとして活動することを希望する審判員の育成を図るために、JHAの特別事業として実施されています。2年間で1期とし、4年間で上限として、A級取得とさらなる飛躍を目指します。

参加を希望する場合は、所属する都道府県の審判長に相談して下さい。